



足立区

資料5

足立区基本計画

令和7年度～令和14年度

生活満足度に関する資料

足立区政策経営部基本計画担当課

生活満足度の向上について①（生活満足度と各分野の関係）

（１）内閣府「満足度・生活の質に関する調査報告書2023～我が国のWell-beingの動向～」によると、生活満足度及び分野別満足度について調査を行い、生活満足度について重回帰分析を行った結果、最も説明力が高いのが「生活の楽しさ・面白さ」であり、次いで「家計と資産」「仕事と生活」「健康状態」となっていた。

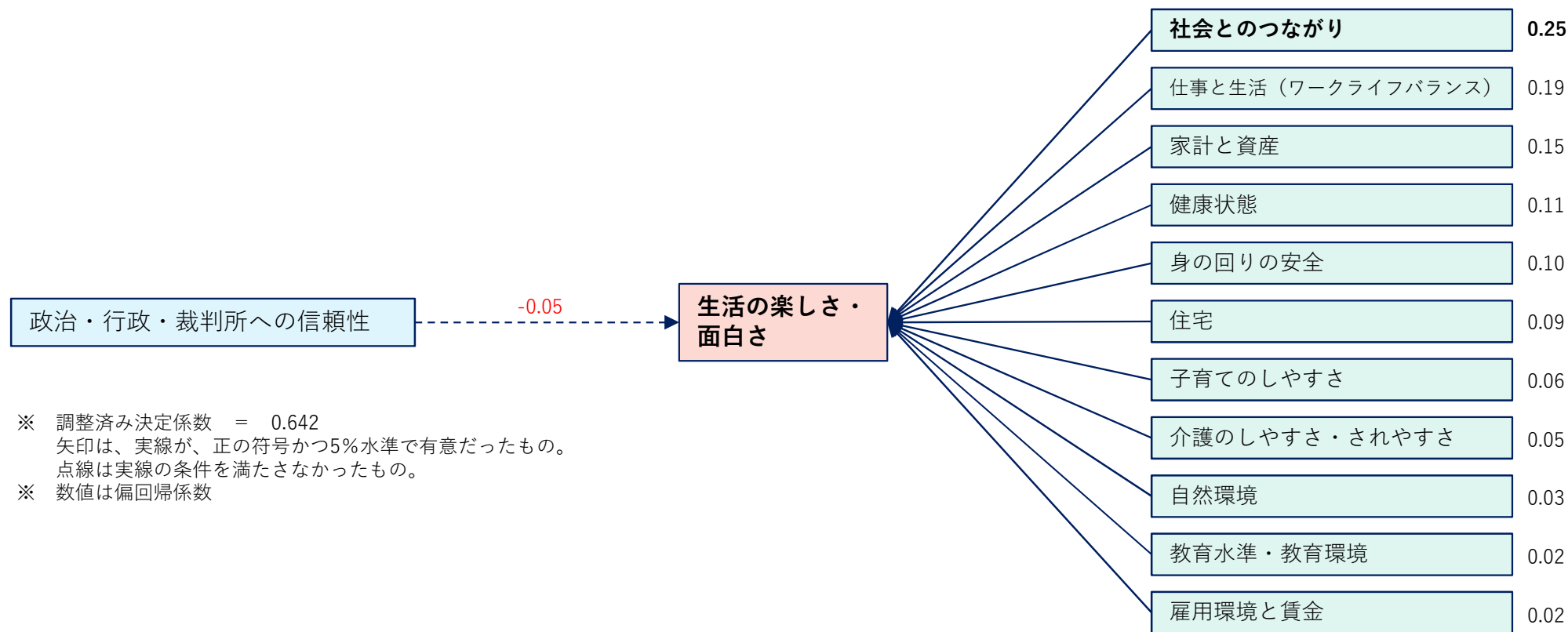
目的変数：生活満足度

説明変数	全体		男性		女性	
家計と資産	0.220	***	0.204	***	0.237	***
雇用環境と賃金	0.042	***	0.049	***	0.040	**
住宅	0.092	***	0.093	***	0.091	***
仕事と生活（ワークライフバランス）	0.116	***	0.135	***	0.095	***
健康状態	0.101	***	0.087	***	0.112	***
教育水準・教育環境	0.060	***	0.095	***	0.026	
交友関係やコミュニティなど社会のつながり	0.039	***	0.061	***	0.011	
政治・行政・裁判所への信頼性	-0.018	*	-0.005		-0.031	*
生活を取り巻く空気や水などの自然環境	0.014		0.027		0.001	
身の周りの安全	0.005		-0.010		0.025	
子育てのしやすさ	-0.017		-0.010		-0.021	
介護のしやすさ・されやすさ	-0.057	***	-0.054	***	-0.057	***
生活の楽しさ・面白さ	0.397	***	0.353	***	0.429	***
定数項	0.368	***	0.136		0.624	***
修正済み決定係数	0.639		0.642		0.639	
サンプルサイズ	10,633		5,289		5,344	



生活満足度の向上について②（生活の楽しさ・面白さと各分野の関係）

- (1) 令和元年～令和2年に同様の調査を実施した結果をまとめた、内閣府「満足度・生活の質に関する調査」第4次報告書では、「生活の楽しさ・面白さ」を他12分野を説明変数として重回帰分析を行ったところ、「政治・行政・裁判所への信頼性」を除き、有意となった。
- (2) 特に、「社会とのつながり」や「仕事と生活（ワークライフバランス）」が高くなっている。



※ 調整済み決定係数 = 0.642
矢印は、実線が、正の符号かつ5%水準で有意だったもの。
点線は実線の条件を満たさなかったもの。
※ 数値は偏回帰係数

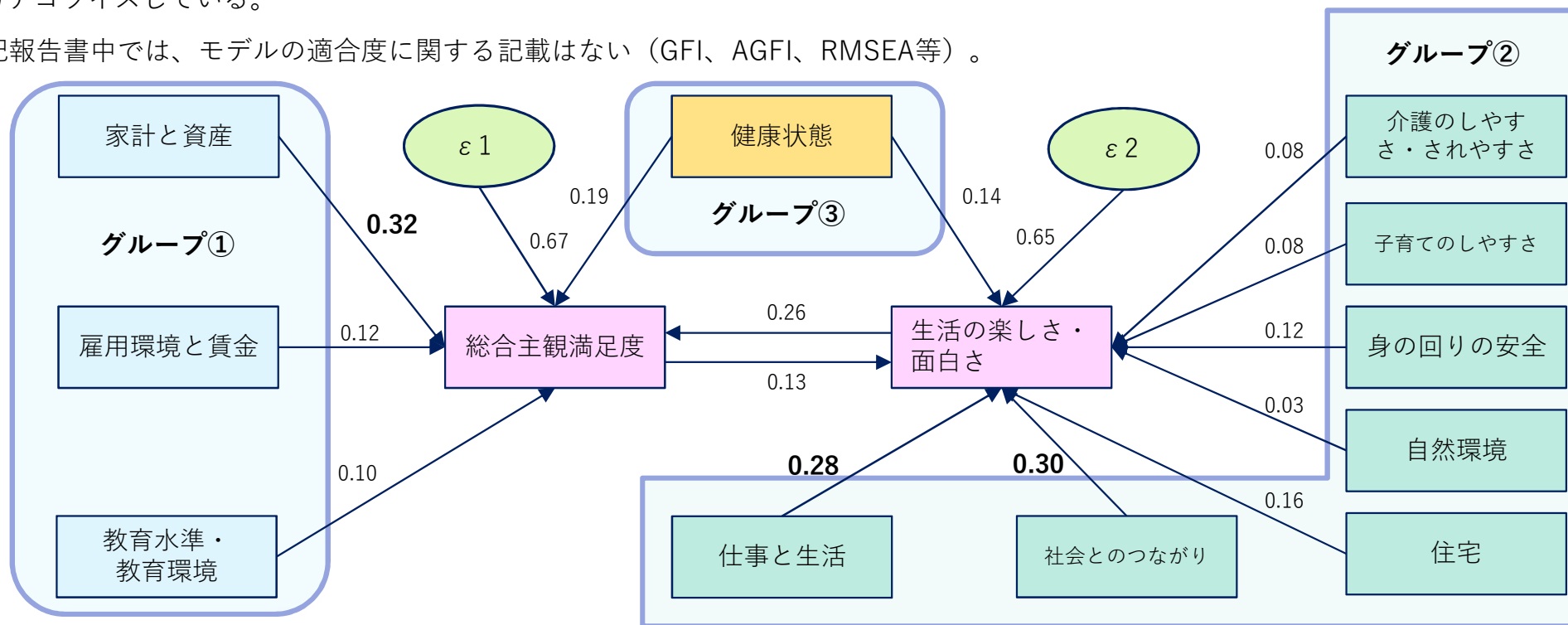


生活満足度の向上について③（生活満足度に関するパス解析 ※参考）

（１）内閣府「満足度・生活の質に関する調査」第４次報告書では、「生活満足度（総合主観満足度）」と各分野の満足度はそれぞれ相互に影響し合う構造であるとして、パス解析を行っている。

（２）検証の結果、最も説明力が高かったものは下記モデルであり、①総合主観満足度に直接影響するグループ、②「生活の楽しさ・面白さ」を媒介して、総合主観満足度に影響を与えるグループ、③総合主観満足度と「生活の楽しさ・面白さ」双方に影響を与えるグループの３つにカテゴライズしている。

※ 上記報告書中では、モデルの適合度に関する記載はない（GFI、AGFI、RMSEA等）。



※ 数字はパス係数。1%水準で有意かつ正符号を満たすもの。εは誤差。

※ R²は総合主観満足度が0.33、楽しさ・面白さが0.35